

## 直前期の学習

茗溪塾塾長 長谷誠基

12月に入り、千葉県では私立中学の第1志望入試が行われました。いよいよ受験シーズンが本格的に始まった感じがします。塾ではこの後冬期講習、正月特訓と続き、1月に入るとすぐに入試が始まります。模擬試験も12月や1月の前半に行われるものが最後ですので、このあとは受験生は過去問と直前対策のテキストなどを中心に学習していくことになります。

毎年のことですが、直前期に入ると「あと〇点で合格圏に入るのだから今後は自分の苦手なものだけ勉強すればいいのではないか？」などと考えてしまったり「〇日間完成シリーズ」などの問題集を新たに購入して勉強している生徒を見かけたりします。

まず1つ目の苦手なものだけ勉強するというものですが、苦手なものだけ勉強するのは子供にとっても非常に負担が大きく、効率の悪いものになる可能性があります。今までやってきて苦手になっているものなので、克服にはかなり時間がかかります。その勉強をやり続けるというのは、相当大変だと思います。苦手克服は大事なことであることは間違いありませんが、それだけに絞ることはせず、総合的な勉強をしながら苦手単元に取り組む時間を増やすほうが、気分も切り替わってより効果的だと思います。

また、2つ目の点ですが、直前期の学習で重要なのは→「今までできなかった問題ができるようになる。」ということです。今まで解いた、テキストの問題、過去問、模擬試験などで間違えた問題を再度解きなおし、出来るようになっていけばOK。間違えたら再度質問し解きなおす。これを繰り返して、自分でできるようになればいいわけです。ですから、新しい問題集などを購入する必要はなく、今までやっていたテキストや問題集などをやりなおしましょう。正月特訓では模擬試験の解きなおしも1つの目的としていますので、参加される方は、再チェックになるでしょう。

この時期からは、いよいよ受験生らしい顔つきになってくる生徒が多くなりますが、毎年この時期から大きく成績を伸ばす生徒は、必ずこの解きなおしを徹底してやっている生徒です。1つのことが完全に理解できると、それが他とつながり、一気に理解が進むというのがそのメカニズムです。あせらず、1つ1つをきちんと理解する学習を続けることが、結局は成績を伸ばす早道になります。成績は受験するその日まで伸び続けます。毎日コツコツと『わかる』学習を続けていきましょう。